



【ものがたり】

ある日、一郎のもとに、おかしなハガキが届きました。「明日めんどろな裁判をやるから来てください」と書いてあります。差出人は山猫。一郎に裁判の手助けをしてほしいというのです。

ハガキを手に出かける一郎。山猫の使い「べっとう」と共に栗の木やキノコの音楽隊、笛吹きの滝に会いながら森を進んでいくと、うつくしい金色の草原で山猫が待ち構えていました。そのまわりにはたくさんのドングリ達。頭のいいドングリ、大きなドングリ、とんがり頭のドングリ…みんな口々に自分がえらいと言って山猫の仲裁をききません。はたして一郎はこの裁判を解決することはできるのか？！

【企画意図】 みんなの心の中にぴかぴかに輝くどんぐりを見つけにいこう！

長く続くコロナ禍の中で、子ども達はたくさん我慢したり、とっても頑張っています。ずっとマスクをつけたままの生活で、本当のお友達の顔もまだ見てないままかもしれません。子ども達の心やコミュニケーションも変化してきています。かつてないストレスの中で、大人も子ども達も抱え込んだ何か。見失いそうな自分自身。

わらび座の「どんぐりと山猫」に登場する一郎は、自分の放った一言で友達を傷つけてしまいます。そんな一郎の所に「山猫からの手紙」が届くのです。様々な出会いが待ち受ける森での、一郎と山猫の使い「べっとう」の冒険が始まります。個性を持った生き物たちとの出会いの中で、自分だけが偉いはず、正しいはずと必死に思っていた一郎の心はふわりと飛び立ち、少しずつ、みんなの「素敵なところ」が鮮やかに見えてくるのです。そして、クワイマックスのどんぐり裁判へと繋がっていきます。

こんな時代だからこそ、そのままの自分をいいと思う事、そして、そのままの友達を素敵だと思う事が出来たら、子ども達の心は、本当に自由になれるのだと思うのです。その人らしさを素敵に思う気持ちを、どうか忘れないで大人になってほしい、という想いをこめて、この作品をミュージカル化しました。



一般社団法人わらび座 公演事業部

〒014-1113 秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田430 TEL：0187-44-3332 FAX：0187-44-3318